

研究領域名 デジタル身体性経済学の創成



明治学院大学・経済学部経済学科・准教授

いぬかい けいご
犬飼 佳吾

領域番号：21B103 研究者番号：80706945

【本研究領域の目的】

従来、規範・実証の両側面において社会科学分野の制度設計論を牽引してきたのは、金銭的インセンティブを主軸においた経済学的意思決定モデルである。しかし、身体の情報の時空間を超えて流通する次世代情報通信環境における制度設計にあたっては、従来の経済学、心理学、脳科学を超えた、身体性情報の流通と身体間接続環境が生み出す人間行動原理の解明が必要である。

既に既存の情報環境では、様々な身体性情報は、データ化され情報プラットフォーム上で無数のやり取りがなされている。こうした身体性情報の流通によって、個人レベルではこれまでは対面する機会がなかった相手との間に新たな交流が生まれ、マクロレベルではパーソナライズされた情報へのアクセスが容易になるなど、生活の利便性は劇的に改善した。他方、現在の情報基盤上では、価値観や嗜好が類似し安心できる者同士がクラスターを生み出す一方で、自分とは価値観や嗜好の異なる者同士の社会的つながりが減少し、時に各人の思惑を超えて互いのクラスター同士が対立するような社会的問題も生みだしている。

このように様々な社会的な問題を伴いつつも、あらゆるモノとコトが情報化され流通する社会の中で、近い将来、身体性情報はこれまで以上の規模と解像度で情報プラットフォーム上でやり取りがなされるようになるであろう。こうした身体性情報の流通は、時空間を超えて他者の身体的体験を自己に重ねることを可能にし、自己感の拡張から個人の認知行動原理の変容をもたらすのみならず、社会レベルにおいて多数の均衡を生み出すことが予測される。とりわけ我々は、互いに排他的な個人の即時的な快楽のみではなく持続的な厚生水準を社会レベルで維持するための方法論を検討する必要がある。個の自律性を維持しつつ、強制されることなく時に見知らぬ他者とさえ互いを支え合う「しなやかな紐帯」へと至るためには何が必要かを検討するためには、文理や特定の学問領域を超えた総合知が必要である。

こうした背景を受け本研究領域では、身体の情報の時空間を超えて流通する次世代情報通信環境における人々の社会経済的意思決定を、行動経済学、心理学、脳科学、情報学を有機的に融合したアプローチによって検討するデジタル身体性経済学を学術変革領域研究として新たに提唱する。

【本研究領域の内容】

本研究領域では、デジタル身体性情報に基づく人々

の新たな認知行動原理を解明し、次世代の社会効用モデルを提唱する。加えてこれらを実現する身体性情報ネットワーク基盤を構築し、新たな情報流通社会の到来を見据えたデジタル身体性経済学の学理を築き、個の自律性を維持しつつ「しなやかな紐帯」へと至るための制度設計に貢献する。この全体目標の下、各班は以下の達成目標を掲げる。

A01:行動経済学班【デジタル身体性経済学における社会効用モデルの構築】

B01:脳科学班【デジタル身体性情報が起こす自己と他者の関係性変容の神経基盤の解明】

C01:身体性情報ネットワーク班【デジタル身体性情報ネットワーク基盤の構築】

【期待される成果と意義】

身体性情報の流通と共有が、社会の分断を生み出すことなく、各個人及び社会が存分にその効用を得るためには、理学・工学・人文社会科学の多領域に渡る検討が必須である。

我々は本研究領域を新たな情報化社会の到来に関する社会モデル議論するための学術的土台を創り、ポスト Society5.0 社会を見据えた新たな文理融合領域を創成する。

また、本研究によって検討される多様性に応じた個と社会のモデルは、個の自律性を保ちながら「しなやかな紐帯」としての社会ネットワークに基づく国・街づくり(政治学)、組織づくり(経営学)、コトづくり(民俗学)、ものづくり(工学)、ひとづくり(共創社会、文化人類学、教育学)等に生かすであろう。

【キーワード】

デジタル身体性経済学：
情報通信技術の発達によって我々の身体が生み出す様々な情報が時空間を越えて流通するようになったとき、人間の社会活動、営みとしての経済活動がどのように変容するのか、また拡張した身体や自己がどのような未来を歩むのかについて、学術的な視点から解明しようという新たな学術領域。

【領域設定期間と研究経費】

令和3年度－5年度
105,000 千円

【ホームページ等】

<https://embodiedecon.digital/>